

「奄美大島」について学ぶ

令和元年度こども世界自然遺産講座 にて小学生27名が博士に認定!

2月15日(土)瀬戸内町立図書館2階にて、「こども世界自然遺産博士講座閉講式」が行われ、この講座は、世界自然遺産登録に向けた取り組みに興味を持ち、自ら行動できる生徒になることを目的にした講座で、4年目を迎えており、本年度は5月に開講し計9回講座を行ってきました。そして今回小学4〜6年生27名が同博士に認定され、受講生らは今後も奄美・沖縄の世界自然遺産登録に向け、学びを深め、行動する決意を新

たにしています。同式では、認定試験の後に、5グループに分かれて、これまで学んだことを発表する場が設けられており、『外来種が奄美の固有種や人間にまでも害を与えている』とし、発表した子ども達は「奄美の固有種を守るため、皆がまず様々な固有種について知る必要がある。そして、車を運転する大人には安全運転を呼び掛けよう」と訴えています。



発表の様子

同窓会費で地元へ恩返し



少附 青寄 いへ 伴金 に基 祝育 還暦

3月18日(水)、昭和35年生全国同窓会から瀬戸内町青少年育成基金へ10万円、同町社会福祉協議会へ7万円を寄附されました。昭和35年生全国同窓会は、今年1月に還暦祝いをきゅら島交流館で開催し、

全国から180名が出席。同会長の伊藤秀樹さんは「会費を節約できたので、同窓に返すよりは、町の役に立てればと思います。今回の寄付にいたりました。子ども達の実になるように使ってもらいたい」と話しました。

重村鴻之介くん、鎌田龍愛くん世界大会で快挙!



優勝、白鵬杯で敬問

先日、両国国技館で行われた第10回白鵬杯(世界少年相撲大会)にて、小学1年生の部優勝の鎌田龍愛くんと小学5年生の部準優勝の重村鴻之介くんが2月12日(水)、表敬訪問に訪れました。

重村くんは「決勝で負けたときは悔しかったけど、これからもっと稽古を積んで次は優勝します」と話しました。また、目標の力士は明生関という鎌田くんは「これからもライバルに勝てるように稽古を頑張ります」と話しました。

「集落の方に安心を」

日本損害保険協会から与路集落へ「小型ポンプ付軽消防車」寄贈



全国離島振興協議会による「令和元年度離島に対する消防施設の寄贈申請」において、「一般社団法人日本損害保険協会」より与路集落に「小型動力ポンプ付軽消防自動車」が寄贈されました。同協会は地域防災に対する消防力の強化・拡充を目的とした支援活動に取り組んでおり、離島地域など全国的な寄贈事業を展開し

ています。(1952年度から始まり寄贈累計台数は3459台) ※瀬戸内町への寄贈は今回で6台目と、与路集落の保島豊区長は「今回、四方を海に囲まれている与路集落に寄贈車両が配備され大変嬉しく思います。集落の方に大きな安心感を与えることとなり、これから消防団員と運用訓練を重ねる方が一に備えさせていただきます」と話しました。

近畿大学生と交流♪

近畿大学生らが瀬戸内町で農業研修



平成29年7月から本町と包括連携協定を結んでいる近畿大学の学生団体「C・S・S」が2月26日(水)から3日間、農業研修に訪れていました。

同団体は、廃棄される食品の有効活用、食品ロスの削減を目的に活動しているボランティア団体で、26日から畑農園や営農支援センター等で農業について学びました。今後は、古仁屋高等学校にて座談会等を計画しているとのことと、近畿大学社連携推進センターの田中尚道教授は「今回の研修で終わらせることなく、今後も継続して瀬戸内町と近畿大学が連携して様々な取り組みを実現させていきたい」と話しました。

まちの安全を守る

新しく消防ポンプ自動車が配備されました



3月30日(月)、大島地区消防組合瀬戸内分署へ消防ポンプ自動車が配備されました。この車両は、各種火災発生時に速やかに対応できるように、小型ポンプ・ホースカーを装備しており、河川や消火栓等の水利を利用して強力な放水を可能としています。

また、車両の側面には、左記のようなイラストも描かれており、デザイン性にも配慮されています。

清らかな自然をイメージした「清雲寮」

清「名」寮女子校の決定に「古仁屋寮」

新しく建築された古仁屋高校の女子寮の名称を古仁屋高校在校生に募集し、下笠弘喜さん、法永健太郎さんの考案した「清雲寮」に決定しました。命名者の下笠さんは「人の手がかけられていない清らかな自然をイメージして、この名前を考えました。これからも地域未来留学生制度が続いて都会から古仁屋高校に来る生徒が増え続けてほしいです」と話し、同じく命名者の法永さんは「寮生に規則正しく生活してほしいという想いで清雲寮と名付けました。寮生には明るく楽しく生活してほしいです。」

と話ししました。また、名前を考案した2人には、図書カードが贈呈されました。



① 命名者の下笠さん(左から2人目)と法永さん(左から3人目)

② 完成した清雲寮のロゴ

代々伝わる「七つ瓶」を後世へ

地域提案型事業を活用し「七つ瓶」周辺を整備

小名瀬集落が、町の地域提案型事業を活用して、小名瀬集落の平家伝承「七つ瓶」周辺の整備を行いました。整備内容としては、雑草が生えることを防止するためのコンクリート整備、花壇の整備、水回り部分(水道、流し台、排水)の整備、集落入口へ案内看板の設置等を整備したとのこと。

小名瀬集落区長の田中環さんは「貴重な観光資源である七つ瓶を綺麗にすることができて大変嬉しく思っています。小名瀬集落は奄美トレイルの海の道コースにもなっているため、道路沿いに設置した案内看板を見て、よりたくさんの方が訪れることを願います」と話しました。



篠川小中学校、集落名看板を作製・設置

篠川集落名の看板を生徒らが設置

3月16日(月)、篠川小中の児童生徒らが作製した集落名を記した木製看板が篠川バス停付近に設置されました。この取組は、森林環境譲与税活用事業の一環で、木材の普及活動、地域と林業との関わり等について理解を深めてもらうことが目的で、児童生徒たちは昨年10月から看板作りに取り組んでいました。

児童生徒らは、是非ご覧になってください♪

児童生徒らは、教職員の協力を得ながら篠川や白浜など10集落の名前をリュウキウマツの板に手彫りし、防腐剤を施し、立派な看板を作製。看板の設置は町や県の職員らが連携して行いました。集落名看板を見かけた際は、是非ご覧になってください♪

